

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第2区分

【発行日】平成30年2月8日(2018.2.8)

【公開番号】特開2016-151663(P2016-151663A)

【公開日】平成28年8月22日(2016.8.22)

【年通号数】公開・登録公報2016-050

【出願番号】特願2015-28904(P2015-28904)

【国際特許分類】

G 02 B 13/02 (2006.01)

G 03 B 5/00 (2006.01)

【F I】

G 02 B 13/02

G 03 B 5/00 J

【手続補正書】

【提出日】平成29年12月20日(2017.12.20)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

物体側から順に、正の屈折力を有する第1レンズ群と、負の屈折力を有する第2レンズ群と、正の屈折力を有する第3レンズ群とからなり、

前記第2レンズ群は、正の屈折力を有するレンズ1枚と、負の屈折力を有するレンズ1枚とから構成され、

前記第1レンズ群及び前記第3レンズ群の少なくともいずれか一方のレンズ群は、物体側及び像面側が共に空気との界面を有する正の屈折力を有する単レンズを少なくとも1枚含み、

前記第1レンズ群と前記第3レンズ群とを光軸方向に固定し、前記第2レンズ群を光軸方向に移動させることで無限遠物体から有限距離物体への合焦を行い、

以下の条件を満足することを特徴とする光学系。

0.56 < |f2| / f < 0.92 ··· (1)

dpm in < 40.2 ··· (2)

15 < d2n - d2p 40.414 ··· (3a)

但し、

f2 : 前記第2レンズ群の焦点距離

f : 当該光学系の焦点距離

dpm in : 前記第1レンズ群又は前記第3レンズ群に含まれる正の屈折力を有する単レンズであって、最もアッペ数の小さな単レンズのd線に対するアッペ数

d2n : 前記第2レンズ群に含まれる負の屈折力を有するレンズのd線に対するアッペ数

d2p : 前記第2レンズ群に含まれる正の屈折力を有するレンズのd線に対するアッペ数

である。

【請求項2】

前記第3レンズ群が以下の条件を満足する請求項1に記載の光学系。

0.50 < f3 / f < 1.10 ··· (4)

但し、

f_3 : 前記第3レンズ群の焦点距離
である。

【請求項3】

前記第3レンズ群の最も物体側の面が以下の条件を満足する請求項1又は請求項2に記載の光学系。

$$0 < C_{r3} a f / f \quad \dots \quad (5)$$

但し、

$C_{r3} a f$: 前記第3レンズ群の最も物体側の面の曲率半径
である。

【請求項4】

前記第3レンズ群の最も物体側の面と、前記第2レンズ群の最も像面側の面とが以下の条件を満足する請求項1から請求項3のいずれか一項に記載の光学系。

$$1.0 < C_{r3} a f / C_{r2} n r < 4.0 \quad \dots \quad (6)$$

但し、

$C_{r3} a f$: 前記第3レンズ群の最も物体側の面の曲率半径
 $C_{r2} n r$: 前記第2レンズ群の最も像面側の面の曲率半径
である。

【請求項5】

前記第1レンズ群が以下の条件を満足する請求項1から請求項4のいずれか一項に記載の光学系。

$$0.8 < f_1 / f < 1.0 \quad \dots \quad (7)$$

但し、

f_1 : 前記第1レンズ群の焦点距離
である。

【請求項6】

前記第1レンズ群と前記第2レンズ群とが以下の条件を満足する請求項1から請求項5のいずれか一項に記載の光学系。

$$1.0 < f_1 / |f_2| < 1.5 \quad \dots \quad (8)$$

【請求項7】

請求項1～請求項6のいずれか一項に記載の光学系と、当該光学系の像面側に、当該光学系によって形成された光学像を電気的信号に変換する撮像素子とを備えたことを特徴とする撮像装置。